

たむらいソーシャルネット ニュース

本当のこと

有限会社たむらいソーシャルネット

田村 満子

「重度の認知症の人です。だから、過去のことや、願望などが混じっているから、話しをあまり信じないでください。」と、主治医や担当の介護支援専門員が言った。しかし、ご本人は、あきらめずに一生懸命話をされようとした。ちやうど一年前、我々のところに持ち込まれた相談だった。病院の相談員からだった。

数年前、外出中に脳梗塞を発症されたご本人は、一人くらしだった。仕事を退職されて間もない時だった。これからの人生をゆつくりと楽しもうとされ始めていた。意識が戻ったときに言葉の障害のあることを知った。我々が相談に応じた時点では、何年という時間ですでに経過していた。それでも退院したい、自分の年金でタバコを吸いたい、おいしいものを食べたいなど具体的な希望もたくさん持っていた。介護保険制度認定調査や主治医の意見書など当

時ご本人に関係する専門家の書類には、全てに介助が必要な、重度の認知症の方だという情報が記載されていた。

言葉の障害を持ちながらも、根気強くこれまでの話、これからの希望などを語るご本人に認知症という疾患は感じられなかった。経過や専門家集団の提供する情報よりも、原点に戻って、ご本人の話すことから出発してみようと考えた。ご本人の了解を得て、これまで一切関係のない医療機関で認知症の診察を受けた。認知症は全く認められない。という診断だった。一年後の今、自分の意思で代理人と契約し、年金の管理や外出、外食などを楽しんでいる。生活の拠点は老人ホームに移った。このご本人との出会いを通じて、「本当のこと」を見極めることは、常にご本人自身と向き合うことからしか、始まらないことを学んだ。今、目の前におられるご本人の力を信じるのが、私たちの実践の始まりであることをこれから大切にしていきたい。

食を大切にしたケアを実践

同志社女子大学

食物栄養科学科

小切間 美保 様

確か一九九九年の夏、山田早苗様（本ニュース ナンバー一に寄稿されています）に誘っていただいて文楽鑑賞に行った先で田村さんと初めてお会いしました。そのすぐ後に「たむらいソーシャルネット」が開業しました。あれからもう八年。その間に、世間では介護保険制度の大幅な改正や大手企業の参入など介護の分野に様々な変化がありました。

*

田村さんとは年齢が近く、二人で美味しい物を食べに行つては仕事の話などで盛り上がります。私が管理栄養士の養成に携わっていることから、サロンで「食事に関する勉強会」をさせていただいています。正確には私のほうが勉強させてもらっていると言わなければいけません。その際、田村さんやスタッフの皆さんと、利用者お一人お一人の咀嚼や嚥下の状況、食品や料理の嗜好、食欲、体重変化などを考慮

して、どのような料理をどのくらい召し上がってもらおうのがよいか話し合います。これぞ個別対応だと実感します。

*

「食へることは人間にとって生きるための基本であり、身体的にも精神的にも重要な行為です。あまりに日常的なため軽んじられる傾向にあるのですが、一昨年改正された介護保険制度にやつと経口移行加算・経口維持加算が新設されました。以前から管理栄養士も経口摂取の重要性を感じていたのですが行動をおこすには困難な場合も多々ありました。ところが、たむらいソーシャルネットでは開業当時からこれを実践していました。中心静脈栄養となつていた方を田村さんは何人も魅らせています。田村さんたちのお仕事には、「高齢者支援はどうあるべきか」という理念がしっかりとあり、また重要なポイントは絶対に外さない緻密さがあります。これが「専門家」なのだと思わされます。

*

これからも私の立場で何かお役に立つことがあれば、大変嬉しく思います。

たむらソーシャルネット活動報告

今年一年の活動報告です。昨年から引き続き実施している活動や、昨年からは少し形を変えて行っている活動もあります。

ホームページができました！ご覧下さい

◆◆ 訪問介護事業 ◆◆

【介護保険サービス】

介護保険制度における「サービス提供事業所」の指定を大阪府より受けております。皆さまのご自宅におうかがいし、サービスの提供を行います。

平成十九年十月現在 利用者数 十二名

【介護保険外サービス】

介護保険外の介護、外出支援などを行います。施設入所や病院に入院されている方を訪問し、話相手や散歩、買い物の実施等を実施しています。今年度は、京都、姫路城、墓参りへ同行したり、レストランや喫茶店で一緒に食事をしたたり、一泊旅行に行きました。

平成十九年十月現在 利用者数 八名

◆◆ 居宅介護支援 ◆◆

【ケアプラン作成】

ケアプランの作成、介護保険の申請代行や、介護保険でのサービスを「どこで」「どのくらい」受けるのかといったサービス計画を作成します。

平成十九年十月現在 利用者数 二十名

◆◆ サロン ◆◆

生活リズムを整えるため、昼間の過ごし方を再構築するための場とし、個別対応に努めております。特にプログラムを設けず、参加メンバー、天候、健康状態により過していたいております。サロンから外出することもあり、春には高津神社の桜を見、夏には盆踊りへ行きました。

平成十九年十月現在 利用者数 五名

◆◆ リビングスペース ◆◆

今年度はターミナル(終末期)となり在宅生活が困難となった方が、新たな生活をスタートさせました。

◆◆ 相談事業 ◆◆

個人や法人との契約に基づいて、年間を通じて様々な相談に応じています。今年は、公的な相談窓口では援助が難しい方々からの相談に応じる機会が重なりました。

◆◆ 勉強会 ◆◆

利用者の方々へより良いサービスが提供できるよう、月に一度勉強会を実施しています。内容は介護技術、認知症の理解等についてなどです。また、外部より管理栄養士をお招きし、感染症、食中毒、衛生管理についても学びました。今後とも勉強を重ねていきたいと思っております。

編集後記

ニュース発行にあたり、ご協力くださいましたS様、吉川様、井上様、石川様、野木様、小西様、ありがとうございます。
ニュースの内容や、たむらソーシャルネットの事業に関して、ご意見、ご助言がございましたら是非スタッフまでお願いします。

〒542-0012

大阪市中央区谷町6丁目14-23

TEL 06-6766-7071

(有)たむらソーシャルネット

講師分類別構成比(%)

講師先	構成比
行政	19.2
大学	17.0
職能団体	19.4
民間	44.4

◆◆ 講師派遣 ◆◆

ホームページを見て、様々な講師派遣の依頼がありました。ありがとうございます。また、ご意見・ご要望などありましたら、ぜひお願い致します。

平成十九年十月現在 実習生数 三名

◆◆ 実習生受け入れ ◆◆

年間を通じて、各種実習生の受け入れを行っています。今年度は、日本社会福祉士会独立型社会福祉士研修の研修生と、梅花女子大学の学生の受け入れを行いました。

平成十九年十月現在 利用者数 二名

あてなむすむすむす

ハイブリッドインタビュー

◇ たむらソーシャルネット訪問介護
◇ 事業をご利用のみなさまからさま
◇ さまざまな「声」をお聞きすることが
◇ できました。

S・T 様

『コロンと通ります』

S様は週三回整形外科通院同行サービスを利用して頂いています。八十歳です。車椅子で移動されています。急な上り坂で「大丈夫ですか？」とヘルパーに声をかけて下さったり、S様が持ちの四点杖でドアを開けて下さったり心優しい方です。整形外科内では、車イスから降り、手すりや杖で一歩一歩「よしっ」と気合いを入れながら歩かれます。「根性はないですね。長生きするに当たって元気ではないですね。長生きして年金稼ぎしないからね」と冗談まじりに笑われる茶目っ気な部分もお持ちです。「目標はとにかく元気

で長生きすること」と力強いお言葉を頂ました。

井上 哲夫様

『一泊旅行へ行きました』

井上様は特別養護老人ホームに入所しており、日頃からタクシーや電車を利用して、買物や外食に出掛けています。先日、同窓会の一泊温泉旅行に同行しました。旅館に着き温泉を満喫した後は、お楽しみみの宴会です。次々に注がれるお酒に上機嫌で、昔話は尽きることがありませんでした。そして、お待ちかねのカラオケが始まると得意の歌を熱唱して拍手喝采を浴びていました。宴会の最後は河内音頭でしめくくり、歌って踊って大満足の様子でした。帰りもバスのビンゴゲームで最初にビンゴを決め、豪華景品をゲットしていました。施設で見せる様子と



はまた違う姿を見ることができ「お土産に何を買ったか忘れてしまいましたわ。また行きましょう」とたくさん買い込んだお土産の品々を目の前にして話す笑顔が印象的でした。

石川 良三様

『甘いものが大好きです』

砂糖をたくさん入れたコーヒート甘いドーナツを食べながら「大阪のミナミの様子は半分変わったんでしょうな」と懐かしそうに話をされます。外出支援は月一回、老人ホームで生活をされている石川様が利用されています。若い頃、洋服店に勤めていた石川様のクローゼットには、おしゃれな洋服がずらりとかがっており、外出着を選ぶのにも迷ってしまうほどです。また、いかにすればよく売れるかを考

えながら仕事をしていたかと真剣な表情で話をされています。

吉川 ミツ様

『働きだしました』

吉川様は、昭和二十五年頃大阪の中心でご主人と二人で靴店を始められました。「当時はまだ周りに何もなく、今の人の三倍は働いた」と言われます。店が順調になり、昼は仕事、夜は踊りに小唄と忙しくとも楽しい日々の思い出の写真が飾られています。その素敵な着物はご本人もご満悦です。「辛かったこともあるが、今は息子や優しい孫が継いでくれているので安心だ」と話されます。そしていつも「若い頃は苦労せなあかん、働けるといふことは幸せなことや、頑張りや」と話されます。吉川様に私達は励まされています。

